



「このアート展」を終えて

「ひのでアート展」では、嬉しそうな子どもたちの顔を見ることができて安堵しました。保護者の皆様にもご協力を頂き、無事に開催することができましたこと感謝申しあげます。

アート展当日、乳児園と幼児園を結ぶ道は親子の楽しそうな声が響いていました。子どもの声は町を活気づけて、元気にしてくれます。地域の方からも、「今日は何かあるの?」と聞かれ、園行事があることを伝えると、開催できたことが良かったと喜んで頂きました。いつも見守ってくださっているのだと有難く思います。

アート展が終わってからも嬉しいことがあります。保育園の手作り玩具を見て、早速ビーズを買ってきて、ペットボトルのおもちやを作ってみてお話、おしゃべりで可愛い空き箱のコレクションを園でのあそびに使うと嬉しいと持って来て頂いたこと。

廃材を集めている段ボールの中には、あふれるほどのさまざまな廃材が入れてあることなど、まだまだたくさんありますが、子どもたちの様子を通して当園の活動に協力して頂いていることを嬉しく思います。

そして何より、保護者の皆さんは、側で見ているだけでなく一緒に遊んで子どもたちと遊ばれていて、とっても楽しそうだったと職員が嬉しそうに話してくれました。お母さんがお仕事で来れなくても、赤ちゃんを抱っこしたお父さんが参加されていて、楽しそうに他の子どもたちとも触れ合っている様子も凄いです。こんな素敵なお父さんやお母さんと一緒に過ごしている子どもたちだから、人が好き、遊ぶのが大好きな子どもたちなのですね。

人への信頼がすべての土台です

2歳児さんたちが一緒に積み木を並べている写真です。かわいい会話が聞こえてきそうですね。赤ちゃんのときにしつかり大人に相手をしてもらい大人への信頼感が



育つと、1、2歳の頃には周りの友だちの存在に興味を示すようになり、2歳クラスの後半くらいになると、「かして〜」「だいたいどうぶ?」「がんばれ〜」などと、相手のことも考えられるようになっていきます。まだまだ喧嘩にもなりますが、なんとなく一緒に空間にいるのが楽しそうです。

さまざまな経験を重ねていく中で、やがて、友だちと一緒に考えることが楽しく、友だちと力を合わせると今よりもっと楽しくなるなどのことがわかってきて、特にこの時期は、運動会やアート展の経験から達成感が深まり良い顔をしています。



友だちの得意なことや苦手なことも分かると、臨機応変に判断したり、助け合ったりしています。

右の写真は、そんな仲間たちと、クラスで飼育しているカタツムリをマイクロスコップを使って拡大してパソコンで見ているところです。何が見えたのでしょうか。子どもたちの目は真剣です。カタツムリは、給食で使う野菜についていたのをもらったのですが、子どもたちは大事に育ててくれています。

カブトムシの幼虫も育てています。卒園

児の保護者の方に大量に頂いたので、毎日、幼虫の糞を子どもたちが掃除してくれています。その糞の数がすごくて大変なのだそうです。

3か月前から育てているダンゴムシも元気です。ダンゴムシのきょうだいは、もはや数えられないほど数が増えて、親の周りで小さな子どもたちがうるちよろして遊んでいます。枝を動かすと、さあーと土の中に隠れることや、ダンゴムシが好きなキャベツを朝、飼育ケースに入れても、子どもが増えすぎて夕方には少なくなっていることなどを子どもたちが教えてくれます。餌の確保も大変です。お家から野菜の葉っぱを持ってきてくれて聞いていると聞いています。子どもたちの話に耳を傾けて、保護者の方がおもしろがって応援をしてくださっていることがとても嬉しく、子どもの探求心を共に育てていただいていることにわくわくしてきます。

たくさんのどんぐりからも、小さな白いどんぐり虫が出てきていて、子どもたちももぞもぞと少し動いたときにキヤーキヤー言いながら観察しています。やっぱり、子どもの興味のあること、楽しいことは、子どもの心をくすぐるようです。タブレットで調べ物をしたり、パソコンを使って映し出すということも躊躇することなく楽しんでいっている様子は柔軟です。

赤ちゃんの時から人への信頼と安心感を育てることが自ら意欲的に人や物に関わっていく力となります。日々の小さな体験は、これからの変化の激しい時代をたくましく生きていく力になることでしょう。乳幼児期を大切にしたいものです。

園長

にじいろプロジェクト2

~子どもはあそびの天才です~

絵の具が付いたどんぐりを空き箱で転がして遊んでいた時のことです。空き箱の廃材の中に牛乳パックが1つありました。気が付いたYちゃんは、絵の具が付いたどんぐりをその中にも入れ、振り始めました。以前、小さくなったパスを牛乳パックに入れて振って遊んだことを思い出したのかな?と、見ていると、仲良しのMちゃんがおもしろそうだと、担任に自分も牛乳パックを出してもらい、二人でフリフリ。楽しそうな二人の様子を見て、真似してみようとする子も現れ、ちょっとしたあそびの輪が広がりました。様々なあそびの経験を重ね合わせ発生した新しいあそび。子どもは、大人がイメージしていることの何十倍も想像力豊かで、おもしろいことに敏感なあと感動し、私もわくわくした瞬間でした。 乳児園主任



牛乳パックにどんぐりを入れてみたよ!

牛乳パックの口を上手に開めようと苦戦中



内側はピンク色

外側もピンクの絵の具まみれ。楽しさの証です。

